

科目名	運動処方論 Principles of Exercise Prescription		担当教員 (研究室番号)	大西 範和 (501)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	norikazu.oonishi@mcn.ac.jp				
履修年次	2年次後期	科目区分	専門支持科目	選択区分	選択	単位数 (時間)	1(15)	授業形態	講義	科目等履修生	否
科目目的	運動処方とは、継続的な運動による身体諸機能の改善効果に期待し、スポーツ・パフォーマンスの向上や健康づくりのために、科学的な根拠に基づいて運動の内容を決めていくことである。本授業では、その基本原則を学び、保健・医療・福祉の現場で役立つ基本的な運動処方の知識と技能の獲得を目指す。特に三重県内で行われる健康・体力づくりのプログラムを体験する。										
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。									
	関連するDP	H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)									
到達目標	1. 健康の維持増進に対する運動の効果や役割の概要が説明できる。(E) 2. 運動処方に必要な形態や体力の測定について理解し、その結果に基づいて基本的な運動プログラムを作成することができる。(E) 3. 三重県内で実施される健康・体力づくりのための運動プログラムについて説明することができる。(H)										
成績評価方法 (基準)	レポート(100%)										
再試験の有無と基準等	なし										
教科書	朝山正己・彼末一之・三木健寿編著 「イラスト運動生理学」東京教学社										
参考書等	加藤象二郎編著「初学者のための生体機能の測り方 第2版」日本出版サービス										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	本授業では、講義により知識を得るだけでなく、対象者への運動処方を主体的に考える。また、三重県内で実施される健康・体力作りプログラムを体験し、健康維持増進のための幅を広げてほしい。										
備考											
回	学習項目				学習内容				主担当教員	授業方法	
1回	オリエンテーション、看護と運動処方				運動を処方するとはどういうことか、運動に何を期待するか、運動を処方する対象者、看護において運動を処方する場面とその意義などについてグループで議論する。				大西	講義	
2回	健康課題と運動の必要性				様々な健康課題の要因について知り、運動との関連について学ぶ中から、健康の維持増進に対する運動の意義や必要性に触れる。				大西	講義	
3回	運動が身体に及ぼす効果				運動を継続することが、呼吸循環器、筋、骨などにどのような影響を及ぼすかを学び、運動に期待される効果を知る。				大西	講義	
4回	運動処方の原則と進め方				運動処方を行う際の手順や原則、実施上の注意事項等を学ぶ。				大西	講義	
5回	身体組成の評価				運動の効果の評価するための身体組成評価について、様々な方法を知るとともに、測定原理や利点・欠点について学ぶ。				大西	講義	
6回	三重県内及び学内の健康・体力づくりプログラムへの参加①				三重県内で実際に実施されている健康・体力づくりのための運動プログラムに参加・体験し、学習内容を深める。				学外協力者	実技	
7回	結果の評価①				運動処方のための体力レベルの評価や効果の検証等のためのデータの評価方法について学ぶ。				大西	講義	
8回	結果の評価②				運動処方のための体力レベルの評価や効果の検証等のためのデータの評価方法について学ぶ。				大西	講義	

学 習 課 題

1回目課題(事後)：看護において運動を処方する場面とその意義などについて復習しておく。

2~5回目課題(事後)：それぞれの学習内容を復習しておく。

6回目課題(事後)：参加した健康・体力づくりのための運動プログラムについて、概要や成果・課題等をまとめておく。

7回目課題(事後)：学習内容を復習しておく。

7、8回目課題(事後)：学習内容を復習するとともに、与えられた課題に対してレポートを作成する。

実務経験を活かした教育の取組